

## 東京の観光振興を考える有識者会議（第2回）へのコメント

石井リーサ明理

舛添知事、委員の皆様、こんにちは。照明デザイナーの石井リーサ明理でございます。本日は、会議に出席できませんこと、大変残念に存じております。申し訳ございません。

現在私共は、日本イタリア国交 150 周年記念光イベントとして、ローマ・コロッセオのライトアップをプロデュースしており、本日 5 月 11 日は、その開会式に重なりますため、イタリアにおります。そのため、どうしても東京での会議に伺えませんが、ご理解賜われますようお願い致します。

さて、本日の議題については、事前に概要をお知らせいただきましたので、書面にてそれぞれのテーマに関する意見を寄せさせていただきます。会議の場でお汲みいただければ幸いです。

### 【アクションプログラム（素案）に関する意見】

東京都観光産業振興アクションプログラム2017（素案）、拝見しました。

本問題に関するコンテキスト、課題の洗い出し、そして具体的なアクションが多岐にわたり盛り込まれ、大変結構かと拝察いたします。

特に、「ライトアップによる演出」「光による演出や水辺空間の活用」「ナイトライフ観光の充実」などが盛り込まれているところが、照明の専門家の立場からは、興味深く、また光の大切さがご理解頂けつつあることを嬉しく感じております。

P.23にある「ライトアップによる演出」の項で、パリが参考例として挙げられていますが、パリ以外にも同プログラムに写真で紹介されている、水辺の光の開発に重点を置いたシンガポールや、前回の私のプレゼンテーションでご紹介したフランスのリヨンなど、光に関する「新たな祭り」を創出することによって、光と祭の相乗効果を達成し、世界的な先駆者となっているような都市の例も積極的に参照しながら、アクションを進めていくことをご提案します。

そして、まずライトアップによる演出のための、全体像を一度きちんと構築すること、それからそれに沿った形で個別のアクションを作り上げていく作業

が不可欠かと思われます。そのための指針として、次の基本コンセプトをご提案します。

1. 多様性：対象となる場所や、観客に偏りがなく、内容や演出手法などにもバラエティーを持たせることで、多くの人に魅力的に感じてもらえるライトアップを考える。
2. 独創性：世界的に例のないものを目指し、別の観光地での成功例の手法にとらわれすぎないようにすることで、東京ならではの個性的なライトアップを考える。
3. 東京らしさ：日本らしい表現を取り入れ、日本の技術を活用することで、日本の首都・東京として他に例のないものを創造する。
4. サステナビリティ：省エネルギーなど狭義での環境型施工を目指すことは勿論のこと、更に、時代を超えた普遍性、飽きのこない表現やフレキシビリティを盛り込んだ対応可能性などにも配慮する。

その他、アクションプログラムに挙げられている「水辺の賑わいの創出」や「祭の創出」「多摩・島しょ地域の観光支援強化」といった項目についても、光の演出を織り込むことによって、より魅力的で、オリジナリティーのある、相乗効果を生み出すことができるのではないかと期待します。よって、それぞれのアクションプログラムを個別に具現化するのではなく、各アクションが相互に助長しあい、立体的に組み合わせさせたような効果的なプラン作りを考案するよう心がけてはいかかと思ひます。

例えば、新しい祭りを創出する際には、夜間に開催されるプログラムを充実させると、光を使った効果が引き立ち、都市が活性化されるだけでなく、宿泊や飲食の需要も拡大されましよう。一部を多摩地区に展開するというような広域化を図ることも、交通機関の向上を促進するはずです。伝統文化だけでなく、サブカルチャーや最新テクノロジーを前面に出した内容の祭りがあっても良いと思ひます。

私の一アイデアですが、河川や湾岸を使って、デジタル・フェスタを開催するなどというのはどうでしょうか。日本が誇る最先端のインタラクティブや、AR（拡張現実）の技術、アニメなどを集めて、日本のアーティストにデジタルアート作品としての光、映像、音楽、インスタレーションなどを作ってもらい、それを、AR端末や、まだプロトタイプの鑑賞装置などを使いながら見て歩いた

り、自動化運転装置付きのライドに乗って移動したりするイベントです。そしてテーマは敢えて日本の伝統美術や芸能、江戸といったものをフィーチャーすることで、世界に誇る日本のハイテクと日本文化PRの相乗効果意を狙うというものです。海外からのマニアや、視察団がたくさん訪れること間違いのないのではないかと思います、いかがでしょうか。

### 【「ホール・劇場」に関する意見】

パリのオペラ座では、バックステージツアーというのが大変人気です。オペラやバレエは、敷居が高いと感じている人や、ちょうど休演日で公演が見られない観光客にも、評判がよいと聞いています。

東京は、歌舞伎や能などが独自の劇場を構えているという、世界に誇れる劇場文化を有しています。ただ、初めての日本人や、更に海外からの観光客には、入りにくい印象があることも否めません。数年前にリニューアルした銀座・歌舞伎座では、イヤホンガイドや字幕を外国人客用にも充実させ、年々、言葉がわからなくても、外国人ファンが増えているそうです。

ぜひ、バックステージツアーで、日本の伝統芸能独特の舞台構造や、お稽古場、衣裳、道具、楽器などを見せ、説明することで、使われていない時の劇場を活用する方法を、積極的に取り込むことをしていただきたいと思っています

稽古といえば、東京のアンガラ劇団などはいつも稽古場に困っています。屋外の公園や広場などで、お稽古を公開することで、インタラクティブな刺激や、ストリートパフォーマンスの一部としての活気作りに役立てる様な仕組みを作るといふのもあると思います。

もう一つ、東京での観劇ライフで不評が多いのは、観劇前後の食事等とのコンパティビリティだと思います。欧米では、コンサートに行ったり、お芝居を見たりする夜は、まず劇場に入る前にアペリティフを楽しみながら同伴者と待ち合わせ、観劇後は芝居談義をしながらディナーを楽しむという、観劇の前後までもがひっくるめての「ソワレ」という習慣が確立している様に思います。パリでもミラノでも、ベルリンでも、ウィーンでも、ニューヨークでも、主な劇場の周辺のレストランは、終演時間に合わせて閉店時間を調整することは当たり前です。そうしたナイトライフ全体のバランスが、東京でも、もっと国際都市レベルに達する様になるといい、といろいろな方から予々伺っていました

ので、ライトアップ演出発展との相互作用という観点からも重要と感じ、付け加えさせていただきます。

### 【「交通機関」に関する意見】

東京の公共交通の正確さと清潔さは、世界的に定評があります。ただ、複数のオペレーターが混在していたり、乗り入れというシステムが多用されたりして、慣れない人にはとてもわかりにくいのも事実です。情報のわかりやすい提示や、説明員の増強、共通パス入手の簡易化などは、既に取り組みが進んでいると聞きますが、更なる増強を期待しております。

話は変わりますが、先日なるほどと思ったことがありました。スイス・バーゼルにて展示会を訪れた時、市内のホテルにチェックインしたら、滞在中の市内公共交通の乗り放題タダ券をもらいました。聞いてみると、ホテル宿泊の際に観光客が支払う市税の還元方法として、公共交通無料券を観光客に配るシステムが確立しているとのことで、スイス国内は皆同じようにしているそうです。観光立国スイスらしい取り組みで、観光客としては大変便利でありがたいばかりでなく、公共交通を利用しようというモチベーションが上がることにより、環境問題にも寄与していると思われまます。また、市内を気軽に動き回ることにより、買い物や外食などの二次的アクティビティーの幅が増え、全体的には、それがまた公共財政に還元されているはずです。最初の「アクションプログラムに関する意見」のところでも触れさせていただいたように、個別案件と思われがちな、交通、宿泊などが複合的に組み合わせられた、よい仕組みの例かと思ひ、ご紹介させていただきます。

最後に、未来の車の光環境について考えるプロジェクトをいくつか経験している関係で、数年後に実現に向けた試みが進められている自動化運転システムの登場に伴う、「クルマ」という概念の変化にも、今から焦点を当てた政策を考えておくことが必要ではないかと考えています。

世界的な自動車メーカーが描く「未来図」では、運転者が後ろを向いて、後部座席と向き合い、まるで居間でくつろいでいるような雰囲気謳われています。関係者によると、そうなるまでにはまだまだ時間がかかるだろうとの予想ではありますが、例えば、スマホが登場したことによって、携帯電話の概念が変わったように、自動化システムの実現は、徐々に、車のあり方、捉え方を変えていくだろうと私は考えています。例えば、レンタカーを借りることに臆病

だった観光客が、自動化システムの車を、まるで遊園地のライドに乗って探検ツアーアトラクションに出かけるように、都内で観光地や様々な街の情報をリアルタイムで拾いながら巡り歩くことができるようになる日が、来るかもしれません。私自身、知らない街に初めて行って、そうしたライドがあったら是非利用したいと思うでしょうし、そうした希望は多いと思われれます。まだ先のこととは思いますが、そんな楽しい機能が街に展開された時のための、環境整備を東京都がいち早く進め、世界的先駆都市として名乗りを上げられてはいかがでしょうか。

(目安1分300字)